



検査ドックやっています

2000年 OMソーラー協会・OM計画より気密測定器「ドクタードルフィン」を販売し、早6年が経過しました。ご購入された皆様には、気密測定器を御社の家造りに活かされていると存じます。

EOM(株)は、本製品の開発者であり、販売及びメンテナンスサービスを OMソーラー協会・OM計画から移管されおり、気密測定器に関する件は、弊社までご連絡ください。

さて、お持ちの気密測定器の調子は如何ですか。測定値の信頼性を保ち、安心してご使用して頂くために、「検査ドック」の体制を整えていますので、ご案内させていただきます。

お手持ちの気密測定器の測定結果にズレがあり、それに気づかないと、必要以上に気密性が高くなったり、低くなったりします。実質が問題になる住宅気密測定では、定期的に検査ドックが必要です。検査ドックを希望される場合は、EOM(株) 細川、荏原までご連絡ください。その後、皆様のご都合に合わせて検査の日程を調整させていただきます。検査ドックの詳細は、EOMのホームページ <http://www.sunQeom.com/dolphin.html#kensa> を参照ください。気密測定器を持っているのに、倉庫に埃をかぶって眠っているなんてことがないようにドクタードルフィンをフル活動させてください。もし、測ること、数値のこと等分からないことがあれば、遠慮なくお問い合わせください。

気密測定器「ドクタードルフィン」検査ドックについて

- 1) 料 金 : **,** ** 円(税込、検査後の送料込)
- 2) 期 間 : 到着後2週間程度
- 3) 内 容 : 単体検査、風量検査、気密性能αA検査
- 4) 結 果 : 検査報告書を作成 (見本はHP <http://www.sunQeom.com/DrDolphinKENSAexample.pdf> を参照下さい)

検査ドックに入ったドクタードルフィンの諸症状と対応事例

今までに検査ドックに入った気密測定器はどんな状態だったのといいますが、単体検査、風量検査、気密性能αA検査では、全て合格範囲内でした。ただ、測定器の消耗部分については、年数の経過や使用頻度が高い工務店さんの場合は、汚れや消耗が激しく、こちらで修理等を行い、以後安心して使って頂けるようにしてお返ししました。

▶現場での汚れ

何件も測っているのが分かるくらい、箱や測定器に現場の汚れが着いていました。荏原がせっせと1台1台心を込めて磨いて送り返しました。

▶本体・操作計測部

- ・マイコンソフト Ver1.01(初期品)～1.02へバージョンアップ。
- ・差圧センサ、時計バックアップ電池不良につき基盤交換。
- ・液晶画面の輝度不足につき供給電圧アップ。

▶外気温度センサ修理

- ・外気温センサが断線につき接続し、被覆チューブで修理。

▶パッキン 送風ダクト接続部や、アダプターのパッキンを交換。(写真2)

▶動圧(風量)測定用ピトー管

- ・ピトー管の風道差し込み部分が不安定のため、接着剤で固定。

▶動圧測定用ピトー管ボックス

- ・ボックス内のチューブが折れないように、安全増しで、U字銅管に変更。
- ・チューブ差込口の抜け止めがとれ、差し込み不完全状態の場合は、新品のピトー管ボックスに交換。

▶差圧測定用シリコンチューブ

- ・チューブの先端が弱くなったものは、先端を切断し、正常な状態に戻す。(写真3)

写真1 検査ドック



写真2



写真3

